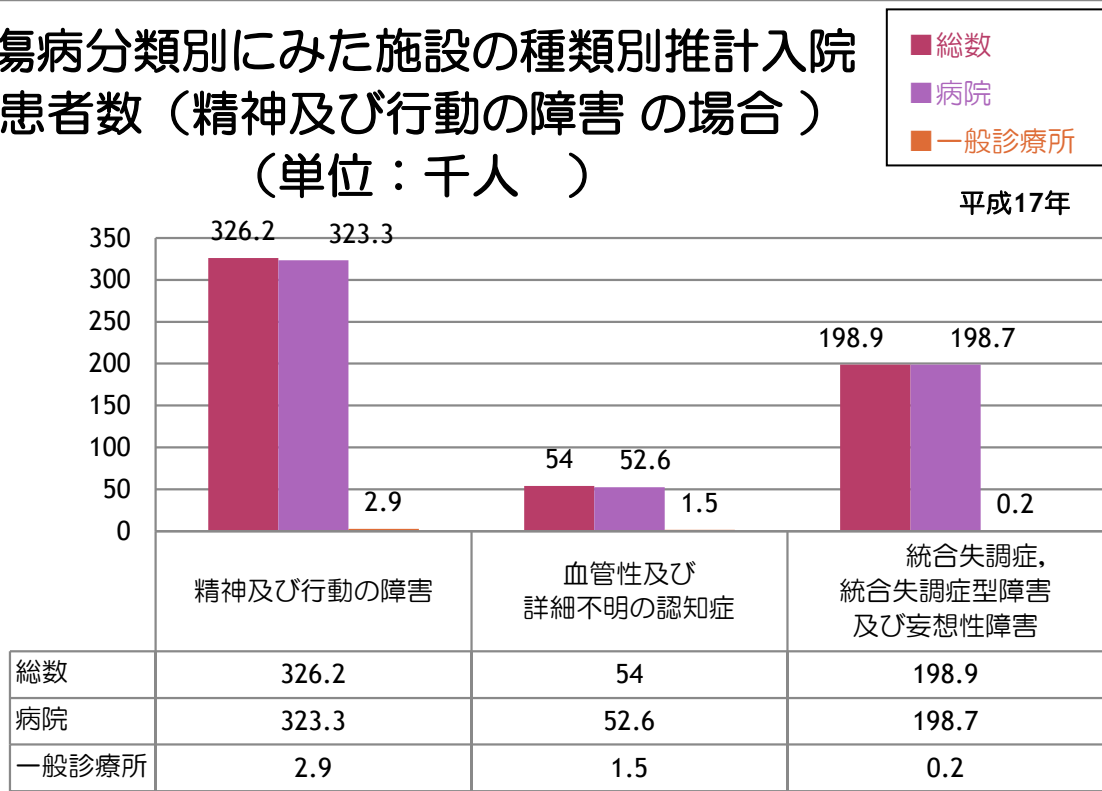


○増え続けるメンタル的な問題（厚生労働省発表の平成20年（2008）患者調査概況より）

厚生労働省発表の平成20年（2008）患者調査概況によれば、全国の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」1392.4千人、「外来」68965.0千人であった（施設数：13,634（病院・一般診療所・歯科診療所）。入院患者傷病分類で見ると、平成17年に比べ全体的に減少傾向であるが、多い順では、「精神及び行動の障害」301.4千人「循環器系の疾患」280.3千人次に「新生物」となっている。病院では、「精神及び行動の障害」299.5千人、「循環器系の疾患」267.0千人、「新生物」の順になっている。一方一般診療所では、「循環器系の疾患」が最も多く、「損傷、中毒その他の外因の影響」となっている。「筋骨格計及び結合組織の疾患」740「循環器系の疾患」と続く。（下記図参照：傷病分類別にみた施設の種別別推計入院患者数平成17・20年・（精神及び行動の障害の場合）。

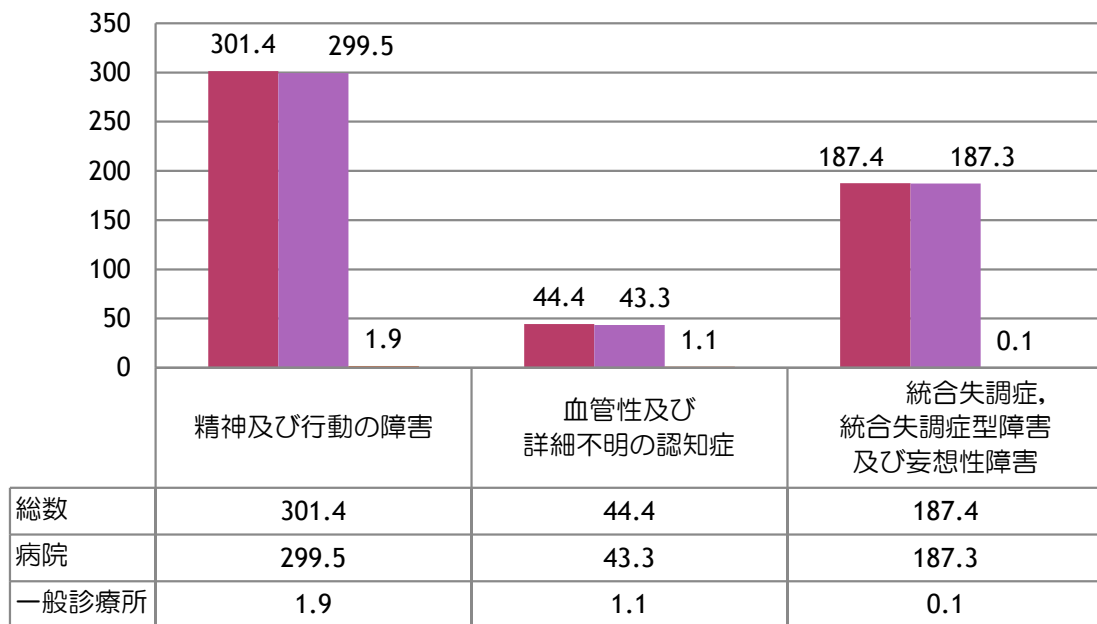
傷病分類別にみた施設の種別別推計入院患者数（精神及び行動の障害の場合）
（単位：千人）



傷病分類別にみた施設の種別別推計入院患者数（精神及び行動の障害の場合） （単位：千人）



平成20年



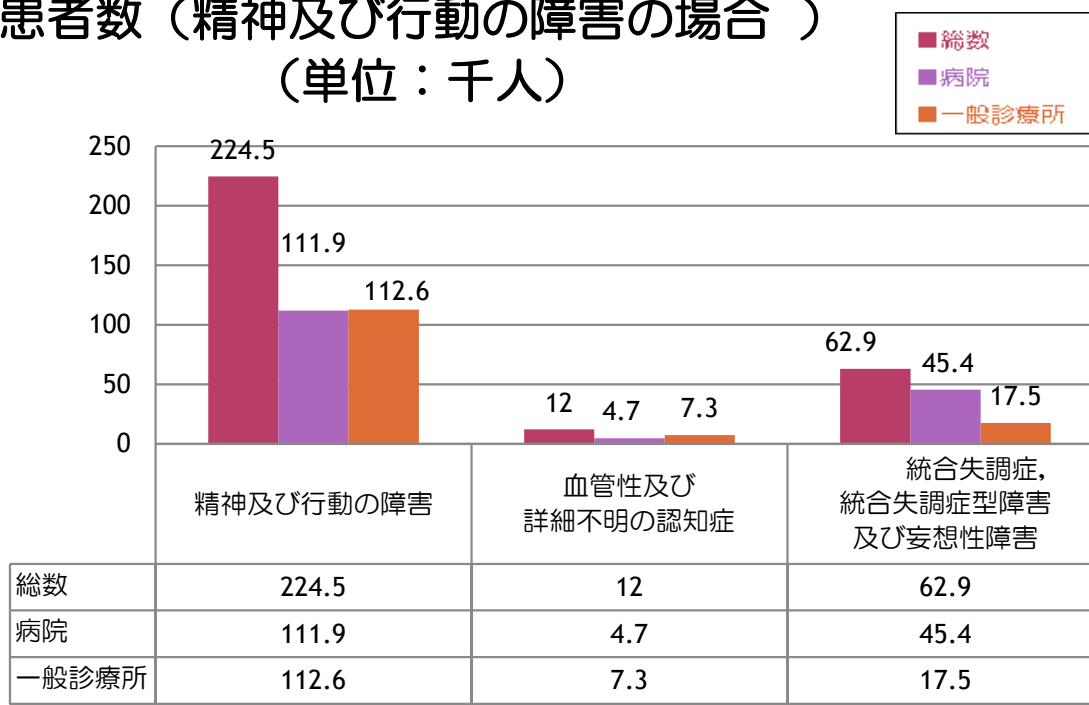
しかし、「精神及び行動の問題」だけで見てみると、一般診療所へ外来患者は、平成17年度より平成20年のおよそ3年で9.9千人増加している。（下記図参照：傷病分類別にみた施設の種別別推計外来患者数平成17・20年・（精神及び行動の障害の場合）

主傷病及び副傷病でみた年齢階級別推計患者数での精神疾患入院総数は、527.9千人となり、男性418.5千人に対して、女性542.5千人となっている。年齢層では、最も多いのは、65歳以上の484.8千人となり、次は70歳以上の402.0千人となり、35～65歳で364.9千人となる。外来では、男性177.2千人、女性256.0千人、年齢層で、最も多いのは、65歳以上の177.0千人、35～65歳174.9千人となり、70歳以上147.2千人となる。

（※「精神疾患」とは、アルツハイマー病を含む認知症、精神作用物質による精神及び行動の障害、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、

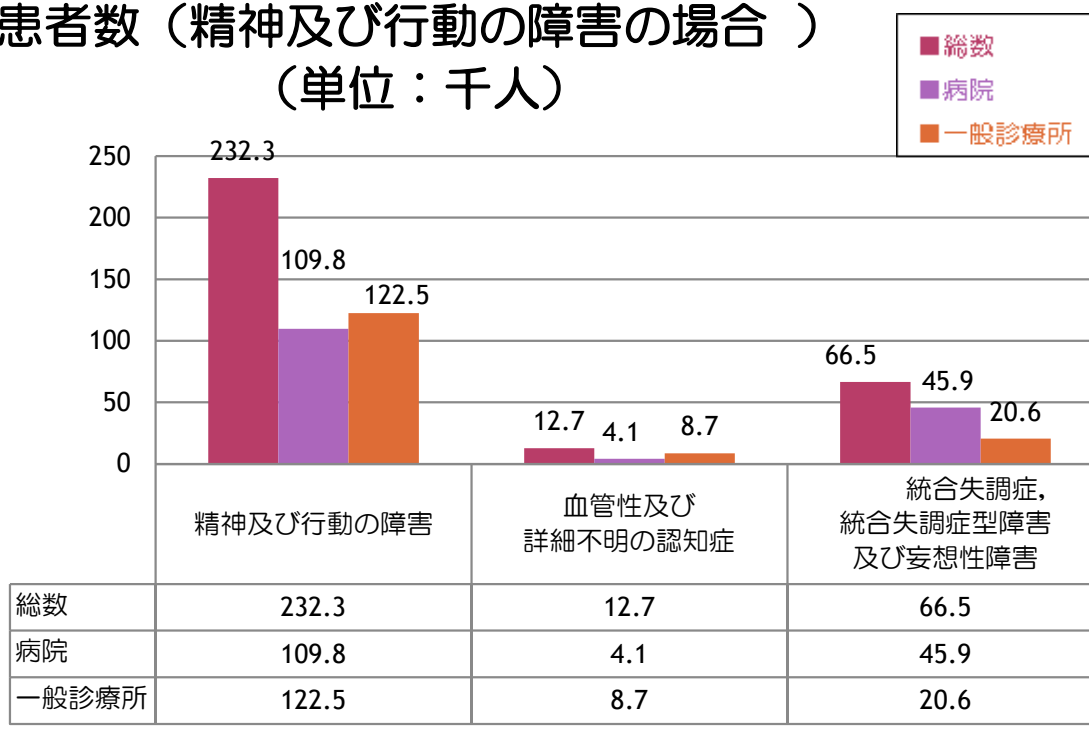
傷病分類別にみた施設の種別別推計外来患者数（精神及び行動の障害の場合） （単位：千人）

平成17年



傷病分類別にみた施設の種別別推計外来患者数（精神及び行動の障害の場合） （単位：千人）

平成20年



都道府別で見ると、入院は「高知」が最も高く、次に「鹿児島」。

また「神奈川」が最も低く、次には、「千葉」「埼玉」となっている。

外来では、「香川」が最も高く、「佐賀」「長崎」となっている。

また「沖縄」が最も低く次に「神奈川」、「埼玉」となっている。

傷病分類別の退院患者の平均在院日数は、「精神及び行動の障害」290.6日

「神経系の疾患」74.1日 「循環器系の疾患」52.7日となっている。

主要な傷病の総患者数の統合失調症、統合失調型障害及び妄想障害を見ても平成17年では、757千人であったが、平成20年では、795千人と38千人も増えている。

これらを見て多くことが見えてきます。心の病は、現代そう珍しいものではなくなってきていること。そして入院中心から外来へと大きく変わってきていること。薬物療法などの精神学の進歩の賜物ではありますが、しかし精神障害は、慢性化することが多く、これらに悩む人々や家族の苦勞は続いていることも確かなのです。外来患者数年次傷病分類の気分障害（躁鬱病を含む）だけで見ても、平成8年で、38千人が、平成20年10月では、80.1千人。平成11年から平成14年の間に26.3千人増加し、平成14年では、64.9千人と増加していることでこれらはさらに深刻化していくことでしょう。

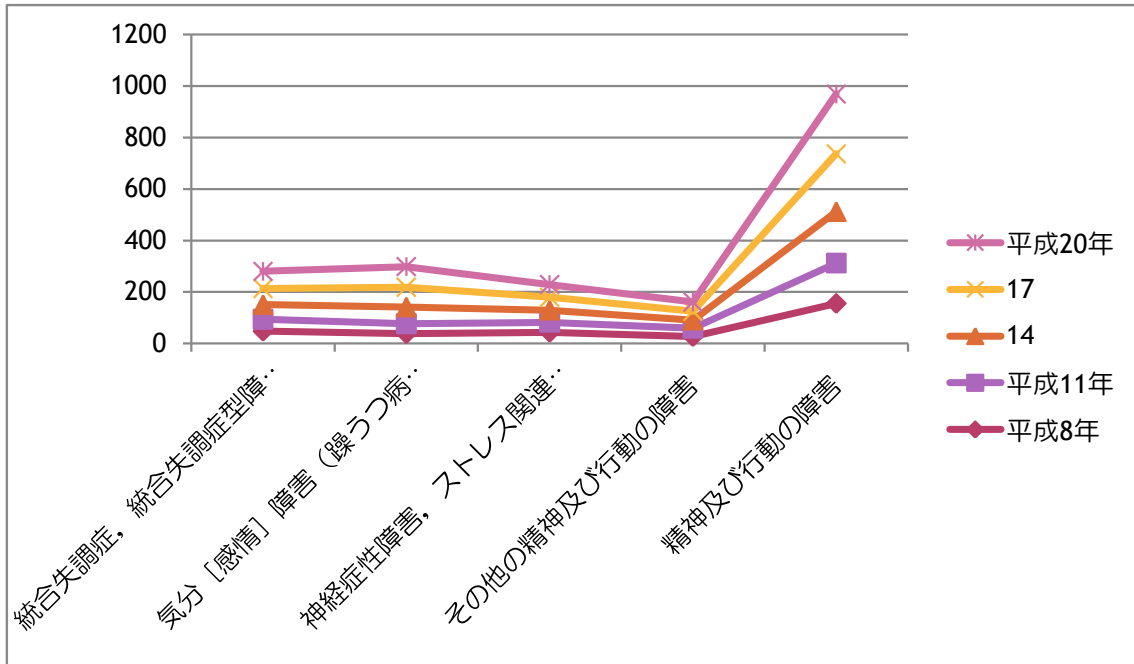
主傷病及び副傷病でみた年齢階級別推計患者数（複数回答） 位：千人）平成20年10月

傷病分類	総数	(参考)主傷病のみでみた推計患者数	男	女	0～14歳	15～34歳	35～64歳	65歳	70歳以上	75歳以上
精神疾患	961.1	600.5	418.5	542.5	18.4	91.1	364.9	484.8	402.0	314.6
総数全て	6947.9	6947.9	3001.5	3946.3	617.2	622.5	2120.8	3566.0	2887.5	2063.8
入院精神疾患	527.9	332.8	241.4	286.5	3.2	26.0	190.0	307.8	254.8	200.7
外来精神疾患	433.2	267.7	177.2	256.0	15.2	65.0	174.9	177.0	147.2	113.9

注：1) 総数には、年齢不詳を含む。

2) 「主傷病・副傷病(複数回答)」とは、主傷病または副傷病として各傷病を有する者をいう。

3) 「精神疾患」とは、アルツハイマー病を含む認知症、精神作用物質による精神及び行動の障害、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、てんかん、その他の精神及び行動の障害をいう。（「精神遅滞」は含まれていない。）



参考資料

厚生労働省 平成20年(2008)患者調査の概況

(結果集計: 厚生労働省大臣官房統計情報部)

精神疾患のデータのみを掲載しております。全患者調査の詳細は、

厚生労働省ホームページまで

*調査の概要

目的

この調査は、病院及び診療所(以下「医療施設」という。)を利用する患者について、その傷病状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的とした。

調査対象

病院 6543 施設数 一般診療所 5825 施設数 歯科診療所 1266 施設数

調査条件

○本調査における傷病は、世界保健機関(WHO)の「国際疾病、傷害および死因統計分類(ICD)」に基づき分類している。なお、平成20年の調査では「第10回修正国際疾病、傷害および死因統計分類(ICD-10)(2003年版)準拠」を適用している。

- 掲載の数値は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。
- 人口10万対算出のため用いた人口は、総務省統計局「平成20年10月1日現在推計人口（総人口127,692千人）」である。
- その他は、直接厚生労働省患者調査でご確認ください。